

○10番（菊池伸也議員） 10番菊池伸也です。ただいま議長から発言の許可をいただきましたので、通告順に従い順次質問をしていきます。

最初に、1の快適な居住空間づくりについて、（1）空き家を活用した定住の推進について2点の質問をいたします。

現在本市においては、子育て世代への住宅取得助成や新婚家庭への家賃助成、あるいは保育料の半額化など、若い世代への施策を中心として他市町村に先駆けて先進的に実施することにより、少しずつではありますが着実に成果を上げていることは認識をし、評価をしているところです。しかし一方で高齢化が進んでいることは事実であり、高齢者のみの家庭が多いことから必然的に空き家が多くなっていることも事実であります。そうした中で、空き家バンクをより一層充実させていくことは、空き家となる物件を減らすばかりではなく、さらにはそれらを利用して居住してもらうことにより、人口減少対策の一助となるのではないかと思います。

U I Jターンによる地方への移住を推進するため、国においても空き家バンクの一元化などに向けて動き出していると聞いております。そこで常陸太田市における空き家を活用した定住の促進についてお伺いいたします。

①として、空き家の有効活用と取り組みについてお伺いいたします。

②として、お試し居住体験についてお伺いいたします。本市においては、空き家を活用した事業として、以前に公益財団法人グリーンふるさと振興機構において取り組まれたお試し体験入居を経て、その家を購入し家族で移住された方を存じ上げております。この方は都市部から移住され、地域のボランティアなどにも一生懸命取り組んでおられます。27年度より本市においてもお試し居住事業が実施されておりますが、それらの取り組みについてお伺いいたします。

2の産業振興についてであります。

（1）農林産業について4点お伺いいたします。

今年の4月から第6次総合計画前期基本計画がスタートしており、町の将来像として「幸せを感じ、暮らし続けたいと思うまち常陸太田」を掲げております。まちづくりの理念や基本目標に、快適な居住環境に少しでも近づけることを考え、①の奥久慈グリーンライン武生線の進捗状況についてお伺いいたします。この林道は、そこに住まわれている方にとっては大変大切な生活道路であり、観光施設ふるさと村などへのアクセスの利便性向上や武生・持方・水根へとつながる道路で、春先の新緑や秋の紅葉は大変すばらしく眺望も非常に良好であり、観光上としても重要な道路となることは間違いないと思います。そこでこの林道整備事業の進捗状況と完成予定をお伺いいたします。

次に②として、森林湖沼環境税の活用状況についてお伺いいたします。

森林湖沼環境税がスタートしてから1期5年、2期目の最終年度になるかと思いますが、本市山林の間伐面積はどの程度進めることができたのかお伺いをいたします。自然景観の保全や水道水などの水源地や安定した上水道の供給などを確保するためには、まだまだ山林の整備は必要であると思いますが、執行部のお考えをお伺いいたします。

次に③として、中山間地の農業についてお伺いたします。

人口減少と少子高齢化が急速に進んでいる本市にとって、中山間地の今後の農業のあり方は深刻な問題であると思います。山間地になるほど農業の労働力は高齢者により守られているのが現状のような気がいたします。

現在、農村集落活性化支援事業が平成27年度から水府地区において取り組まれているようですが、高齢者の労働力や今後定年退職される方々にとっては、このような事業はぴったりの内容であると思います。そこで事業の進捗状況と今後の見通しについてと、その他の地域ではどのような取り組みがなされているのかお伺いをしたいと思います。また、執行部においては、自然景観の保全と中山間地の農業をどのように捉えているのか、併せてお伺いたします。

続いて④として、イノシシの被害の実態と捕獲対策についてお伺いたします。

昨年度は、捕獲隊による捕獲数や狩猟期間の捕獲数は、今までで一番イノシシの捕獲頭数が多かったように思います。しかし今年度になってからも相変わらずイノシシの被害を訴える方が多いように思います。このままイノシシが増え続けた場合、中山間地の農業は継続の危機に瀕するのではないかと思います。現在、捕獲隊員数が今年度から7名増員になっていますが、さらなる隊員増員も踏まえた上で、被害の実態を的確に把握し、捕獲対策や被害防止対策をどのようなお考えのもとに効果的に実施されているのかお伺いたします。

(2) 観光産業について2点お伺いたします。

最初に、①の観光客の入り込み状況と今後の対応についてお伺いたします。

昨年度と比較して、各観光施設の入込客の状況はどのようになっているのかと、今後とも観光客を呼び込むための対応についてのお考えをお伺いたします。

竜神大吊橋の観光案内所などで観光案内をされていて、お客さんに竜神大吊橋を渡った先の魅力がないとよく言われます。竜神大吊橋が完成した当初のころは年間100万人ぐらいの観光客が来ておりましたが、現在は年々減っているのが現状かと思われまます。このことに関してもあわせてご答弁願います。

次に、②の竜神ダム湖でのカヌー体験についてお伺いたします。

昨年、期間限定でカヌー体験が実施され、今年は3月18日から11月30日までの期間実施されると聞いております。実際に亀ヶ淵までのハイキングコースからカヌー体験をされている方を見ていると非常に楽しんでいる様子が見てとれますが、利用客の状況は現在どのような状況であるのかお伺いをいたします。

以上で1回目の質問を終わります。

○益子慎哉議長 答弁を求めます。政策企画部長。

〔綿引誠二政策企画部長 登壇〕

○綿引誠二政策企画部長 空き家を活用した定住の推進に関する2点のご質問にお答えいたします。

初めに、空き家の有効利用と取り組みについてお答えいたします。

定住人口の拡大を推進する本市におきましては、空き家を活用した移住者の受け皿整備は大変

重要であると考えております。そのため本市では、空き家の有効活用により良好な住宅環境を整備し定住促進に努めるため、平成27年度より空き家バンクを設置しております。

運用に当たりましては、空き家を提供する方、また、空き家を利用したい方双方が安心して利用できますよう、茨城県の宅地建物取引業協会との協定により物件の仲介に専門の業者をあてがうこととしておきまして、これまで延べ30件の物件を登録し、うち9件が成約している状況でございます。

全国の多くの自治体でも空き家バンクに取り組んでおりますが、全国の物件を1つの窓口で閲覧できるホームページがないことなどから、国におきましても空き家バンクの一元化に向けて動き出しておきまして、制度の説明会や市町村参加の確認などが現在行われているところでございます。本市におきましても、当市の物件情報をより広く全国に周知する機会となることから積極的に参加してまいりたいと考えております。

次に、お試し居住体験についてお答えいたします。

事前にお試し居住をいたしまして、その地域の気候、風土、さらには地域住民との触れ合いを通して地域の状況をあらかじめ把握することは、移住を決断する上で貴重な機会になると考えております。本市におきましては、平成27年度より国及び県の交付金を活用しお試し居住体験事業を実施しております。本年度は里美地区に空き家を活用したお試し居住の住居を用意いたしまして取り組みを進めているところでございます。

なお、事業の実施に当たりましては、民間活力の活用、並びに地域住民の方々のご協力をいただきながらさまざまな体験メニューを用意するとともに、既に移住されている方々と交流する機会などを設けております。

このように空き家を活用した定住促進に努めているところでございますが、今年度につきましては全国版の移住情報誌へのPR記事の掲載なども現在予定しております。本誌での暮らしの魅力を発信し、より多くの方が本市を移住先として選択していただけるようさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 農政部長。

〔武藤範幸農政部長 登壇〕

○武藤範幸農政部長 産業振興についての中身の農林産業に係る4点のご質問にお答えいたします。

1点目の奥久慈グリーンライン林道武生線の進捗状況についてでございます。

まず、奥久慈グリーンライン林道は、全体面積といたしましては、常陸太田市、常陸大宮市及び大子町にわたります総延長74キロメートル、9路線で、奥久慈地域の林業の生産性や生活環境の向上、観光振興などを目的に平成7年度から整備を進めておきまして、本市に係る路線といたしましては、本年6月27日に、水府の持方地区から大子町の水根地区を結ぶ水根持方線の延長6,911メートルが竣工、供用開始となったところでございます。

ご質問の武生線につきましては、ただいまの水根持方線との接点となる持方地区から県道常陸太田大子線の下高倉町地内までの全体延長1万480メートルで、平成11年度から工事に着手し、平成28年度末時点で8,490メートルが完了してございます。そして、本年度から平成3

1年度末の完成を目指し、残りの区間でございます竜神ふるさと村入り口の約250メートル南側の地点で、現武生林道と交わります地点から県道の下高倉町地内までの竜神大吊橋の北側を通るルートとなる区間1,990メートルの工事を進めていくこととなっております。この残りの区間は、これまでの区間のように現道拡幅が主な区間ではなく、急傾斜の山を切り開く新設道路でありまして、岩盤も多いことから難工事であるとも聞いているところでございます。

グリーンライン林道武生線は、議員ご発言のとおり、竜神大吊橋や袋田の滝などの周遊観光を促進するルート、また新緑や紅葉シーズンの景観もすばらしく、竜神ふるさと村や男体山ハイキングなどへの観光客等の誘客促進に寄与する道路としての期待も大きく、さらには災害時の迂回路や住民の皆様方の交通の利便性の向上など、地域の生活環境の向上のためにも重要な林道でございますので、引き続き計画どおりの完成に向け県と連携を図ってまいります。

次に、2点目の森林湖沼環境税の活用状況についてお答えいたします。

森林湖沼環境税は、茨城県が森林の保全・整備や湖沼等の水質保全のため平成20年度に創設したものでございまして、第1期が平成20年度から24年度、第2期が平成25年度から29年度までの期間となっております。本年度が最終年度となっております。本市におきましてはこの税を活用し、間伐や作業道の開設を行う森林機能緊急回復整備事業と平地林や里山林の整備を行う身近なみどり整備推進事業により森林整備を進めているところでございます。

間伐は、制度創設時に県が市の森林調査を行い、民有林で緊急に間伐を行う必要がある荒廃森林面積を1,808ヘクタールとし、そのうち平成28年度末までに約1,050ヘクタールの間伐を実施してきておりまして、本年度も70ヘクタールを予定しているところでございます。また、身近なみどり整備推進事業による平地林などの整備は、平成28年度末までに19カ所、約90ヘクタールを整備し、本年度は5カ所、約6ヘクタールを実施する予定でございます。

議員ご発言のとおり、自然景観の保全や森林の持つ多面的機能を維持するためには今後とも継続した森林の整備が必要なことから、平成30年度以降の制度の継続、拡充に向けまして、本市を含む県北6市町、また県市長会、県町村会、森林組合連合会などの森林関係団体36団体など、県内の多くの関係団体が知事に対しまして要望活動を行ってきているところでございます。

なお国におきましては、昨年末の与党税制改正大綱におきまして、森林所有者による自発的な間伐等が見込めない森林に関し、市町村が中心となって実施する森林整備の財源とする森林環境税（仮称）の創設に向け平成30年度中に結論を得ることとしておりますので、その動向も注視しつつ引き続き森林整備を進めてまいります。

次に、3点目の中山間地域の農業振興についてのご質問にお答えいたします。

本市における山間地を含みます中山間地域の田や畑の耕作面積は約6,000ヘクタールでございまして、特に山間地におきましては平地と比べ生産条件が不利であるため、荒廃農地の増大、さらには鳥獣被害の多発、高齢化の進展などによりまして集落の活力低下が進んでいるのが現状でございまして。

このような中、本市におきましては集落や農村環境の維持、活性化のため、国の中山間地域等直接支払交付金や荒廃農地等利活用促進交付金などの積極的な活用、また、県の中山間地域農業

基盤整備促進事業や、元気な農山村創生チャレンジ事業などの活用によりまして、気候や風土などの地域の特性を生かした産地づくりに取り組んでいるところでございます。

ご質問の水府地区におけます農村集落活性化支援事業もその一貫でございまして、国の補助金を活用し、柿の生産者や加工品製造グループなどが中心となりました水府地区活性化推進協議会を平成27年度に組織化し、地域の皆様方のご協力をいただきながら各種事業に取り組んでいるもので、主な事業といたしましては、未利用資源の庭先の柿を活用したお茶や漬け物などの加工品の開発で、現在試作品づくりを進めており、事業の最終年度となる平成31年度の商品化を目指しているところでございます。

また、地形等を生かし、定年後でも栽培が容易で耕作放棄地の解消にもつながるハナモモなどの枝物栽培の生産拡大にも取り組んでおり、今年の4月には既存栽培者に新規参入者を含め、27名によりますJA常陸大宮枝物部会常陸太田支部が発足したところで、今後は出荷に向けた栽培品の高品質化や生産者の拡大を目指していくところでございます。

また、市内における他の地域での地域住民等が主体となった地域資源を活用した特産品開発等の動きといたしましては、里川カボチャの生産普及と高付加価値化に取り組む里川カボチャ研究会、馬ブドウなどを活用した商品化に取り組む棚谷健康野草づくり研究会、エゴマの栽培と商品化に取り組む上深荻町エゴマ栽培愛好会などがございます。

議員ご発言のとおり、山間地を含みます中山間地域は、国土の保全、水源の涵養など、森林及び農業の有する多面的機能の維持に大きな役割を担う重要な地域であり、また自然環境、景観、伝統文化など固有の地域資源が残る地域でもあることから、地域住民の定住、集落や農村環境の維持、活性化は非常に重要なものであると考えてございまして、今後とも地域の特性を生かした農村集落の維持、活性化と農林業の振興に積極的に取り組んでまいります。

次に、4点目のイノシシによる被害の実態と捕獲対策についてお答えいたします。

初めに、イノシシによる被害の実態でございまして。過去3年間の被害面積及び被害額は、平成26年度は被害面積339アール、被害額899万4,000円。平成27年度は被害面積256アール、被害額445万8,000円。平成28年度は被害面積314アール、被害額562万1,000円となっております。本年度は、8月31日現在でございまして、被害の報告件数といたしまして43件、被害面積192アール、被害額392万5,000円となっております。昨年の同時期が報告件数32件、被害面積111アール、被害額328万4,000円であり、被害は依然として減少傾向にない状況でございまして。

なお、本年8月末現在で最も被害の面積が多い作物は水稲で約97アール、次にジャガイモで約71アールとなっております。

次に、捕獲対策につきましては、昨年度の有害鳥獣捕獲隊による捕獲が年間で423頭であったことから、本年度は捕獲隊員を7名増の65名体制とし、また、くくりわなの提供や箱わなの貸し出しを増加し、狩猟期の一部を除く年間230日で500頭の捕獲を目指しているところでございます。

これらによりまして、8月21日現在でございまして捕獲頭数は207頭で、昨年同時期の1

56頭より51頭の増となっております。また、11月中旬から3月末までの狩猟期につきましても、福島第一原発事故以降、助成制度を講じることによりまして毎年捕獲頭数が増加し、昨年度は過去最大の899頭であったことから、本年度につきましても昨年度の捕獲頭数を下回らないよう対策をとってまいります。

今後も捕獲隊員の増員、確保に向けまして、市捕獲隊と連携を深めるとともに、新規にわな猟免許を取得する方への助成制度につきましても広報紙等により周知を図り、狩猟者の確保に努めてまいります。

なお、被害対策には捕獲だけでは限度があるため、個人や集団、地域の自己防御による対策も大切でありますことから、電気柵の設置による被害防止対策につきましても引き続き推進してまいります。

○益子慎哉議長 商工観光部長。

〔岡崎泰則商工観光部長 登壇〕

○岡崎泰則商工観光部長 商工観光部関係の観光産業についての2点のご質問にお答えいたします。

1点目の観光客の入り込み状況と今後の対応について、まず、本市の観光客の入り込み状況でございますが、茨城県が実施する観光客動態調査では、平成26年が76万4,200人、平成27年が79万7,000人、平成28年が126万1,300人となっております。平成28年の大幅な増加につきましては、昨年の「道の駅ひたちおおた」のオープンによるものでございます。

この観光客動態調査につきましては、1月から12月までのあらかじめ指定された観光施設の客数とイベントや祭りへの来場者の合計となりますが、観光施設では西山荘、竜神大吊橋、ぬく森の湯、西金砂そばの郷そば工房、「道の駅さとみ」「道の駅ひたちおおた」となっておりまして、イベントや祭りにつきましては、竜神峡での鯉のぼりまつりや灯ろうまつり、紅葉まつり、また、すいふ蕎麦まつり、太田まつり、常陸秋そばフェスティバルが調査の対象となっております。

また、本市の観光の拠点であります西山荘、竜神大吊橋への入り込み状況につきましては、西山荘が平成26年で3万1,101人、平成27年が4万6,133人、平成28年が3万5,391人となっております。竜神大吊橋の渡橋者につきましては、平成26年が25万4,200人、平成27年が25万3,200人、平成28年が24万6,308人となっております。

次に、誘客促進のための今後の対応でございますが、これまでも誘客促進を図るため、受け入れ体制の整備として教育旅行における農家民泊の拡充や、体験型アクティビティ等バンジーキャンプやカヌーの誘致、また、団体旅行に対する助成やプレミアム旅行券の発行、観光客のレンタカー利用に対する助成、広域連携として、大子町と連携した西山荘や竜神大吊橋、袋田の滝の共通入場券の発行などを行ってきたところでございます。これらの事業による平成28年度の入込客につきましては、2万9,800人となっております。その他にも常陸秋そばフェスティバルなどのイベントや祭りの充実、地域資源を活用した着地型周遊観光ツアーの造成、さらには、観光物産協会のホームページのリニューアルや常陸太田観光ナビ等、SNSを活用した情報発信に努

め誘客促進を図ってきたところでございます。

観光客の動向が「見る観光」から五体で体験する「体験型観光」へのニーズが依然として高い傾向にございますので、今後も引き続き教育旅行における農家民泊の受け入れ体制の整備や新たな体験型アクティビティ等の誘致等体験型観光を推進し、常に話題性のある観光を目指していくとともに、それらの効果的な情報発信に努めてまいりたいと考えております。

また、本県を訪れる外国人観光客につきましては、平成28年度が前年度より2万4,000人増の25万9,000人と年々増加の傾向になっておりますことから、今後も茨城県や関係機関と連携を強化し、外国人の誘客を図るため本市の魅力を前面に打ち出した旅行商品の造成と情報発信の強化に努めてまいりたいと考えております。

また、観光施設の整備といたしましては、バンジージャンプやカヌーの誘致により竜神峡周辺の観光客に若者が多くなってきたことから、今年度、水府観光物産館及び水府物産センターを若者にも入りやすい施設にするためのリニューアルや、来年度につきましては老朽化が著しいぬく森の湯のリニューアルを計画しているところでございます。さらには、平成31年度末に奥久慈グリーンライン林道が開通することから、竜神ふるさと村へのアクセス道路の拡幅など対岸の整備についても検討してまいりたいと考えております。

次に、2点目の竜神ダム湖でのカヌー体験の利用状況でございますが、平成28年度は県内で初となるダム湖でのカヌー体験として、5月の連休と夏休みから紅葉シーズンの11月まで139日間実施いたしまして479名の体験者がございました。今年度につきましては、ホームページやイベント等でのPRに加え、ひたちなか市等近隣の小学校やつくば市内の小中学校36校を訪問いたしましてPRをしておりますが、8月末現在で体験者が553名と増加の傾向にございまして、学校を訪問してのPRに効果があることから、今後も引き続き学校等を訪問してのPR活動を積極的に行ってまいりたいと考えております。

○益子慎哉議長 菊池議員。

〔10番 菊池伸也議員 質問者席へ〕

○10番（菊池伸也議員） ただいまは懇切丁寧なご答弁感謝いたします。ここで2回目の質問に入らせていただきます。

快適な居住空間づくりについての空き家を活用した定住の推進について、①の空き家の有効活用と取り組みについてであります。空き家を活用した移住者の受け皿整備は、定住人口の拡大には大変重要であるという認識のもとに事業を積極的に取り組んでいただきたいと思いますので、さらなるご努力を要望しておきたいと思っております。

会派で視察をした際に、栃木市なんですが、ここでは町を知っていただくためにバスツアーを28年度から取り組んでいるんですが、2回ほどやっております。40人募集したところ120名で、28年度はそれが250名ほどの申し込みがあったというように伺っておりますので、本市においてもそういうことをご検討されたらよいのではないかと思います。

②のお試し居住体験についてであります。平成27年度よりお試し居住体験事業を実施しており、本年度は里美地区にお試し居住の住居を用意し、あわせて体験メニューを用意して、先輩

移住者からお話を聞くような計画をするのご答弁でありましたが、27年、28年度はどのように取り組んでいかれたのか、その成果は出たのかどうかお伺いをいたします。

○益子慎哉議長 政策企画部長。

○綿引誠二政策企画部長 お答えいたします。

27年度のお試し居住でございますが、こちらは金砂郷地区のそば工房に隣接しますケビンの方にお試し居住の住居をご用意いたしまして、成果報告書のほうでも説明はさせていただいておりますが、昨年度は2世帯のお試し居住の実績がございます。今年度につきましては、現在のところお問い合わせのほうはございますが、実際に宿泊されている方はございません。

○益子慎哉議長 菊池議員。

○10番（菊池伸也議員） ありがとうございます。

お試し居住体験についても、栃木市を視察した折、栃木市でもって取り組んでいる事業として「やどかりの家」というのがありまして、1泊2,000円、一月3万円という予算でもってお試し居住体験をしている話を伺ってまいりました。かなりの人数がお試し居住体験をしております、そのうちの2組が移住をしたとお伺いしております。

本市においては今年度から里美の民家を確保してやっているようでありますけれども、各地区にすばらしい空き家が残っているのではないかなと思いますので、本市においてもそういう事業に取り組んでいただきますように要望しておきます。

移住情報誌などにより常陸太田市の魅力を発信し、移住先として選択していただくためにさまざまな条件整備やターゲットの絞り方も必要になってくるのではないかなと思いますので、その辺のご検討もよろしく願いいたします。

次に、産業振興についての農林産業について、①の奥久慈グリーンライン武生線の進捗状況については理解をいたしました。

②の森林湖沼環境税の活用状況についても理解はいたしましたが、先ほどの答弁の中にもありましたように、まだまだ整備しなければならない状況の中で、国の動きあるいは県への要望等を答弁させていただいておりますので、よろしく願いしたいと思います。

次に、③の中山間地の農業振興についてであります。中山間地におきましては、市民、市外の方を問わず、水府地区活性化事業のような活動をする人や団体が増えると耕作放棄の解消にもつながると思いますので、ぜひこれは強力に進めていっていただきたいと思っております。また、ブランド品として挙げられました里川カボチャや焼酎については承知をしておりますが、他の団体として馬ぶどう等の商品化に取り組む団体やエゴマの栽培と商品化に取り組んでいる団体があるのご答弁であります、事業内容、規模等をお伺いいたします。

○益子慎哉議長 農政部長。

○武藤範幸農政部長 お答えいたします。

まず、棚谷健康野草づくり研究会でございますが、今年の4月に棚谷地区の5名の方を中心に組織化されたもので、県の元気な農山村創生チャレンジ事業の採択を受けて取り組んでいくものでございます。

事業内容でございますが、健康野草というか、地域にあります馬ぶどう、もしくはドクダミ、ないしはビワや桑、これら健康づくりによいとされる野草に着目し、耕作放棄地や場合によっては棚谷ふるさと公園の有効活用を図るため、それらの栽培をしながら健康品づくりというか、地域の素材を生かした加工品づくりに取り組んでいこうという団体でございます。

また、エゴマの関係の団体でございますが、里美地区の上深荻町で活動を進めようとしている全部で16名の、上深荻町もしくは折橋町や大菅町、小妻町などの方で組織化をする団体ございまして、今年度市の市民提案型まちづくり事業を活用しながらエゴマの栽培とエゴマを使った商品化に取り組み、地域全体のブランド化を図っていこうという団体でございます。

以上でございます。

○益子慎哉議長 菊池議員。

○10番（菊池伸也議員） ありがとうございます。

ただいま答弁していただきました棚谷地区、あるいはエゴマの栽培等でございますが、大変すばらしい事業だなと思っておりますので、今後ともご支援のほうをよろしくお願ひしたいなと思っております。

地域住民の定住や中山間地での農業の維持、活性化は、常に向き合って今後ともさまざまな取り組みをしていくことが市の活性化にもつながっていくと思っておりますので、強く要望しておきます。

次に、4のイノシシの被害の実態と捕獲対策についてであります。過去3年間の被害面積や被害金額を比較するとどちらも数値が少なくなっております。この結果は捕獲隊や電気柵等による対策が功を奏し、被害縮小につながっているのではないかと考えております。

今年に関して言えば、イノシシの捕獲頭数は昨年を上回ることは間違いないと思っております。また、被害に関しても昨年よりも大きな面積の被害になるのではないかと危惧をしております。現在、茨城北の農業共済の評議委員が稲作等の被害の検査をしている最中ではありますが、既に検査をされた水稲作付面積の、これは一人の方なんですけど、作付面積の95%がイノシシの被害にあったという話をお伺いしております。まさに農業の危機と言っても過言ではないほどのダメージを受けております。

そこで、イノシシを含め有害鳥獣を効果的に防ぐために、捕獲隊はもちろんのこと、農業をする人や一般の狩猟団体にも協力をもらうなどの連携をとりやすくするため、当分の間は有害鳥獣対策係などの専門部署を置くことを要望しておきたいと思っております。

(2)の観光産業についてお伺いをします。1の観光客の入り込み状況と今後の対応についてでございますが、大変詳細に答弁をしていただきましたが、2点だけ要望しておきます。

1点目は、奥久慈グリーンライン武生水根間が31年度に開通になると、先ほど答弁していただきましたように、竜神ふるさと村においてさまざまな取り組みができるようになると思っておりますので、今からご検討をしていただきたいと思います。

2点目は、竜神大吊橋対岸にある山ですが、ここは南北朝戦乱期に城郭構築されたと伝えられております。高倉城の跡地で鎌倉時代に国井経義が領し、代々高倉氏の居城説が伝えられている城であります。高倉城は、日常の在地支配の館は「麓城」と呼び、山頂に構築された山城

を「竜ヶ井城」と呼んでいたと聞いております。ぜひここに竜神大吊橋から上れるような配慮をしていただきたいなと思います。そしてこの場所に歴史探訪を楽しめる公園等，展望デッキをつくり，竜神大吊橋対岸からの新たな魅力として発信できるよう，これは要望としておきますのでご検討願います。

参考までに，ただいまの件で申し上げますと，以前に山頂から20メートル上がれば海まで見えることを確認しているとのことでもあります。

次に，竜神ダム湖のカヌー体験についてであります。現在進められているそばハウス龍亭がカフェ風のレストランに補正予算がついて改装されることになっております。そういう状況での竜神ダム湖でのカヌー体験は，新たな観光スポットの魅力としてPRできることだと思いますので，PRにさらなるご努力をお願いしまして，お客さんをどんどん呼んでいただきたいなと思っております。

以上で私の一般質問を終わらせていただきます。